

若者の居場所がない!?

株式会社榎戸材木店
会長 榎戸正人

かつて、渋谷と言えば若者の街で、名物の交差点にも裏路地にも多数の若者がたむろしていました。しかし今、若者が渋谷から姿を消しつつあると言われていています。その原因は高級化し過ぎて価格が上がったから。高層のオフィスが建ち並び、渋谷交差点には外国人観光客で埋め尽くされています。安い喫茶店は姿を消し、綺麗でシャレた高級なカフェへと変わってきました。

オフィスに勤める高給取りのサラリーマンにとっては落ち着いてくつろげる場所なのでしょうし、インバウンド観光客にとってはコーヒー1杯¥1,000でも気にしないのでしょうが、とても貧しい若者が入れる店ではありません。追い出されるわけではなくても、若者は必然的に街から消えていきます。

彼らが見つけた憩いの場所。それは公園です。ベンチに座って缶コーヒーやペットボトル入りのお茶を飲むのが精一杯のぜいたく。さらにお金がなくても、水道水で我慢する手もあります。アルバイトの日当は上がったと言っても、アパート代や食費の負担は大きい……もっとも、アメリカなどのようにホームレスになって街をうろつくことはないだけマシなのかもしれませんが、若者に元気がない街はどこか寂しいです。

かつてのように風紀を乱すと言って若者が敬遠される時代には戻って欲しくはありませんが、やはりテレビ局などが「最近の若者は」といって取材に訪れる街には戻って欲しいと思います。もっとも、新木場に至っては、元々、若者の姿は稀ですが。

長男は将来の新木場は若者が闊歩する街にしたいと夢を抱いていますが、まあ無理でしょう。その代わり、マイホームを持った家族が、気軽に家具作りなどを楽しめる街を目指しています。小さな子供がウロウロするのも怖い気がしますが、子供だけで遊べるスペースは作りたいものです。託児所になりそう……

その子供たちも中学生、高校生になれば、中には木工に興味を持ってくれる人も出て来るでしょう。今でも当社は7月と11月に小学生向けの木工教室を開催し、東雲の保育園には気に入られてしまって、ときどき先生に引率されて遊びに来ます。木工ともいえないほどの、金づちで釘を打ったりボンドで木を張り合わせたりする程度ですが。

最近は肖像権がうるさくなって、子供たちの写真を撮ると顔は写さないようにとか、もし雑誌(組合広報も含む?)や木材業界紙に顔を載せる場合にはボカシを入れて欲しいなどと言われます。どこで誰が目にするかもしれず、親からのクレームが怖いようです。

その点、渋谷の若者たちは自分から写して欲しいとテレビカメラに群がる人たちだったので、その若者たちが消えてしまうのは本当に寂しいものです。そのようなニーズがあるのですから、安い喫茶店を開いても客は来ると思うのですが、やはり基本的に地価が高くなり過ぎたのが原因なのではないでしょうか。これ以上価格が上がると、日本人のサラリーマンも利用できなくなる日が来るのかも知れません。